

平成30年度 第3回白石町協働による地域づくり検討委員会 議事録

- 開催日時:平成30年9月12日(水)午後7時～午後9時
- 開催場所:白石町役場3階 大会議室
- 出席委員:五十嵐委員長、森副委員長、草野委員、片渕委員、川崎委員、上野委員、志田委員、内野委員、吉田委員、島ノ江委員、藤木委員、片渕委員、江口委員、前田委員、丸田委員、原崎委員、木下委員、林委員、山下委員
- 事務局:百武副町長、松尾総務課長、井崎企画財政課長、千布生涯学習課長、土井白石公民館係長、片渕福富公民館係長、森有明公民館係長、坂本白石創生推進専門監、吉村企画財政課長補佐、筒井白石創生推進係長、柴田白石創生推進係主任、藤井白石創生推進係主事、川崎政策推進係主事

《 議 事 録 》

午後7時 開会

1. 開会

2. 委員長あいさつ

○委員長

皆さんこんばんは。この検討委員会も3回目を迎えてまいりました。何となく協働の地域づくりのイメージが少しずつ委員の皆さんも分かりかけてきたのかなと思います。本日町民アンケートの取り方、町内で活動している団体アンケートなどのデータも使いながら多くの町民の思い、それを反映できるような計画づくりに進めてまいりたいと思います。どうぞ円滑な議事進行にご協力よろしく願いいたします。

3. 協議事項

(1) 第2回検討委員会の振り返り

○委員長

それでは議事に従いまして進行させていただきたいと思います。まず前回第2回検討委員会の振り返りについてです。事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料の説明に入ります前に第2回検討委員会の模様を行政放送の映像にて思い出していただこうと思います。

【行政放送映像の放映】

第2回の検討委員会では地域の安全・安心と協働をテーマにワークショップを開催し、7月6日（金）大雨特別警報発令の時に考えたことや行動したこと、そして振り返ってみて新たに災害時に必要なことや課題などを話し合っていました。また協働、助け合い、支え合い、協力の意味などについて考えていただきました。

話し合っ、発表していただいたものを簡単にまとめたものが資料1になります。資料1をご覧ください。各班の説明は時間の都合上省かせていただきますが、主なものを紹介しますと、大雨特別警報発令時にまず考えたこととして、避難をどこにしていいいかわからない、特別警報は初めてなのでどうなるのだろうか？家族や身内は大丈夫か？といったことをまず考えて、そして行動したことは自家用車での巡回、友人知人などへの連絡及び情報交換などをしたとされています。そして振り返ってみて、改めて必要あるいは課題と思ったことは今後の課題として地域内の各団体の連携が自主的にできるようになることが必要。的確な情報を誰がどのように少しでも多くの人に伝えるかが課題としてまとめられていました。

資料2をご覧ください。資料2は議事録となっています。ワークショップでの話し合いについては作成していませんが、確認をお願いいたします。

資料3をご覧ください。資料3につきましては前回の検討委員会の時に高齢者の一人暮らしや夫婦のみ世帯のデータがほしいということだったので、第1回会議の資料3の追加の資料としてお出ししております。平成27年国勢調査における町内65歳以上単独世帯は675世帯で、小学校区別でお知らせしております。とりあえずどれだけいらっしゃるかということで数だけグラフで示しております。結果として小学校区が大きい、これは人口が多いということになりますで、人口が多い校区の数が多いという結果になっております。次のページをご覧ください。国勢調査における町内65歳以上世帯員のみの世帯810世帯の状況です。夫婦のみではなく65歳以上のみの世帯のデータしかありませんでしたので、こちらを示しております。65歳以上の兄弟が住んでる人や親子が65歳以上の場合も含まれております。これも校区が大きい福富、白石小学校区が多くなっているという結果になっております。

○委員長

はい、ありがとうございます。ただいまのところまで何か質問はありますでしょうか？

○委員

追加資料についてですが、65歳以上の単独世帯数の状況ということで校区毎に世帯数をここに掲載してありますけども、全体で675世帯ということで、これの校区毎はないですか？

○委員長

内訳ということですかね？それぞれの校区毎の総世帯数。前に資料出ていましたかね？

○委員

675世帯の校区毎の内訳というかね。

○委員長

校区ごとの高齢化率は前出たと思うのですが校区ごとの総世帯ですね。

○事務局

それは前回の1回目の資料にあります。

○委員長

追加資料ということでございますので前回までの資料を遡って関係性を見てもらうと、例えば1校区で総世帯数に占める65歳以上の単独世帯数の割合とかですね、それがあるとより比較しやすいってことだろうと思います。次から次へと追加のデータを出していこうと思っておりますが、佐賀市の場合は例えば高齢者の生活実態調査っていうものがホームページで公開されていまして、データとしてあると思うんですが例えば夫婦世帯夫婦だけの世帯か、単独世帯、その世帯に住んでおられる方が何に困っているか？とかですね。通院に困っているだとか買い物に困っているだとか、そういうデータがあるんですね。例えば通院する場合にどういう手段で行くか。自分で運転する、バスで行く、親族に送ってもらう、いろんな選択肢をデータ化したものがありまして、その高齢者をみんなで支えていく場合に高齢者の実態をかなりの確に把握したうえでどうすればいいかということを考えなければいけませんので、データ等についてはですね、また改めて事務局に相談をして、まとまった分かりやすいデータをこの先皆さんにお渡しできるようにしたいと思います。

補足といいますか、関連で前回のワークショップで時間がなく省いた箇所がありまして、お手元の参考資料をご覧ください。ページをめくっていただきまして、前回ご欠席された方もいらっしゃると思いますが、こんな感じでワークショップを行いました。最初にたまたま大雨がありましたのでそれをテーマにして暮らしの安全安心にかかわるようなところで、先ほど事務局からご紹介いただいたような警報にどういった対応をとったのかということをお互いに話し合いました。

2つ目のテーマは時間の関係でできませんでした。それが第2テーマ「地域の福祉と協働」です。国・厚生労働省が地域包括ケアシステムと呼ばれる、地域で要は高齢者を在宅のまま支援していこうというのを地域包括ケアシステムと言います。これについて言葉は難しいですけど私たちが考えたこと、自分で出来ることは自分でやってもらう、国がやるべきこと自治体がやるべきことはここまで、その間にみんなで助け合う、支え合うということがまず必要になります。これは当然地域包括ケアシステムですから福祉の問題ともいえますけれども、福祉の問題だけではなくまさに当委員会で検討しております「協働まちづくり」と密接に関係することを皆様にご理解して頂きたいという想いで準備したのになります。この図は、厚生労働省が地域包括ケアシステムを説明するときによく使う図です。これを植木鉢だと思ってください。植木鉢に植物が成長して葉

っぱが3つあるんですね。これからの医療、福祉、介護、それは医療・看護、介護・リハビリテーション、保健・福祉という3つの葉っぱ、これから成り立っている。これを私たちは、これから高齢化が進む中でどうやって支えていくのかということで、重要なのはその植木鉢の土だと言われております。葉っぱがよく育つためにはいい土がなければいけない。そのいい土の部分が「互助」、ある意味協働のまちづくりになります。介護予防だとか生活支援だとか、先ほど言ったようにお年寄りの人がなかなか外に出ない、日中ほとんど家の中にいて外に出る機会がない、外に出る方法もないという高齢者がおられます。そういう高齢者はますます増えてきます。そういった高齢者のいわば生活を支援するという。家に閉じこもらずに外に出れば誰かと話します。そのコミュニケーションをとることによって要は頭もやわらかくなりますし救われることがたくさんあります。そういった高齢者の居場所を作ってあげるというのも重要な生活支援なのです。その居場所として白石ではサロン活動というのですかね？ありますよね？全国的に例えばサロン活動。佐賀市の場合にはデータとして校区ごとに年何回サロンを開催していてそのサロンに延べ何人の高齢者が集まっているのかというデータも全て公開されています。小学校区によってたくさんサロンを開いているところとあまり開いてないところそういうのがよくわかります。そうすると地域的にサロン活動に熱心な取り組みをしているところか、そういったところにあまり熱心に取り組んでいないところか、比較することができるようになります。「互助」が、まさに協働のまちづくりだと思っております。当事者団体というのが、例えば社会福祉協議会、通称社協と呼ばれる組織になります。それから高齢者によるボランティア。高齢者自身が高齢者を支えなければいけない時代になっております。75歳以上の高齢者を65歳以上の高齢者が支えるということです。これもボランティア活動です。高齢者同士で助けることが前提となります。それから生きがい就労と言われますけれども、ほとんどの高齢者はいわば年金暮らしです。年金プラスアルファほんの少しでもいいからボランティア活動することで対価がもらえる。ボランティア本来は無償の貢献なのですけれども内容によっては対価つまりお金が発生してもいいわけですね。ちょっとした助け合い活動をしながらちょっとお金が入る、それが生きがいに繋がる。例えばシルバー人材センターで働いておられる方々というのは確かにお金のためもありますけれども、ある意味生きがいでもありますよね。シルバー人材センターで例えば花壇の花の手間をやってくれている。それによって対価が支払われている。それによって生きがいを感じておられます。これからの社会は、助け合いですけれども、自分自身でできる人はそういう生きがい就労という形で少しでも社会に貢献していただかないといけないというような意味です。それから、心身の能力の低下、経済的理由、家族関係の変化などでも尊厳ある生活が継続できるように生活支援していく。この地域包括支援ケアシステムで重要なキーワードが「尊厳」という言葉です。高齢者になるとどちらかという若い世代からは煙たがられたりします。あるいは除外されたりします。本来人間として平等なはずです。「尊厳」、例えば寝たきりにな

ったら当然排泄に困ります。その時に紙おむつでずっと1日中ほったらかされてしまう。これはやはり人間として尊厳に関わることであります。寝たきりであっても綺麗でありたい。綺麗であるということは実は人間の尊厳として極めて重要なことです。最低限ご飯を食べさせて、そこそ元気であればいいという、それは尊厳ではない。人間として自尊心が保証される、そういう老後でなければいけない。そういう人間の尊厳をみんなで作っていきましょう。

地域包括ケアシステムで「尊厳」という重要なキーワードがございます。生活支援には食事の準備など、サービスができる支援から、近隣住民の声かけや見守りなどのインフォーマルな非公式的などという意味の支援まで幅広くて担い手も多様である。ここのところが実は協働のまちづくりで極めて重要なところ。いわゆる見守り活動です。絶えず自分は誰かに見守れているという安心感です。あるいは誰かを見守っていること、それによる誇り、見守りあうことです。こういった社会を、地域社会をみんなで協働して作っていく。この互助がないと、いい土にならないわけです。税金を投入して社会福祉政策（公助・共助）を行っても、その財源が厳しくなっていく一方で、この土の部分「互助」がないことには成り立たない。この互助をどうやってみんなで強化していくのか、これが地域包括ケアシステムにおいて極めて重要なテーマであって、これこそがまさに協働のまちづくりです。

暮らしの安全・安心、この前防災の話をしましたけれども、何か危機が迫ったときにいち早く高齢者を支えられる、助けてあげられる。その安心感があって高齢者はそこで暮らすことにある意味生きがいといいますか、そこで暮らし続けたいという思いですね。この家に住み続けたい、この地域で暮らし続けたい、それをみんなで支えていくのが地域包括ケアシステムという考え方です。これについてはすでに町内でも既に検討が始まっていると伺っております。これは全国的に検討が始まった段階で、福祉関係者ばかりが集まっていると地域包括ケアシステムは成り立たないのだと私は思っております。暮らしの安全・安心について、地域の活性化について、産業の振興について、いろんなことが実は関わってきます。そういう意味で多くの方々がみんなで考えていくテーマになるようなことを実は前回のワークショップで取り上げたかったのですが、時間がありませんでした。機会がありましたらまたこういったテーマでもワークショップをしたいと思っております。

前回の振り返りのところで何かご質問はありますでしょうか？

○事務局

先程の上野さんの世帯数のお話ですが、人員の方はお渡ししたのですが世帯数は入っていないのでそちらは後で付け加えさせていただきたいと思えます。

○委員

このデータは27年でしょうか？これが4年経っているわけですね。

○事務局

国勢調査ですから。

○委員

それはわかるのですが、国勢調査で現実に我々もデータをもらって調べたりしているのですが、これから非常に65歳以上労働者の人が現実には多くなっていく。団塊の世代の人たちがもうリタイアして家に帰って両親の面倒を見るとか、非常にこれはデータの的に急速に高齢化の時代に入っているわけですから、もっと多くなるのではないかと考えております。

○委員長

おっしゃるとおりです。ますます増えていきます。統計上は夫婦2人で住んでいるということであってもどちらか一方が入院中であつたり老人ホームに入っていたり、統計上は反映されない場合があります。実際には夫婦世帯だけ、あるいは単独世帯だけ、お一人だけですね、この数字はますますこれから増加していきます。それは少なくとも自治会長さんとか民生委員さんはある程度押さえてもらっていると思うんですね。個人情報保護の問題もあってなかなか情報を共有しにくいですが、この時代に個人名が分からないと言う前提で、やはり情報は共有すべきです。自分の所の自治会に夫婦だけの世帯が何世帯、単独世帯が何世帯、そういったものは個人が特定できない範囲でやはり共有しておかないといけません。少なくとも隣近所が知っておかなければいけない。これがつまり見守り活動です。統計データをしっかりと認識をする事と、その統計データが持っている意味、一体どういうことなのだという事を絶えず考え続けなければいけないと私は考えております。そのように数値を読んでいけばいいと思います。後で佐賀市の生活実態調査、高齢者のデータをお見せしますので、これを白石でも提供できるのか検討したいと思っております。よろしいでしょうか？

(2) 町民アンケートの報告

○委員長

それでは協議事項(2)です。今後我々が検討していく上で町民アンケートが極めて重要な考え方の根拠になります。その町民アンケートの8月時点の報告が出ておりますので事務局の方から説明をお願いします。

○事務局

資料4をご覧ください。町民アンケート調査の報告書です。これは8月時点の概要版となっております。この後も何通か来ておりますので、最終的には全部含めて作成をいたします。また、概要版なのでアンケートの最終ページにありました自由意見の取りまとめは今回省かせていただいております。それでは少し長くなりますが、内容について説明させていただきます。

次のページをご覧ください。調査の概要です。19歳以上の町民2,000人の方を対象に実施しております。調査の方法といたしまして郵送による配布・回収を行って

ります。7月13日に郵送いたしまして、回収は8月10日を回答締切日として実施をいたしました。しかし、締切日以降に返送されました調査票につきましても可能な限り集計に加えております。今回は8月24日回収分までを反映させております。回収率ですが有効回収数が808通で回収率が40.4%。目標の50%には届きませんでした。アンケートの回収率では高い方になったのではないかと思います。

4ページをご覧ください。報告書の見方について詳細な部分は後で確認いただきたいと思いますが、図中の構成比パーセンテージは、小数点以下第2位を四捨五入しておりますので合計が100%とならない事をご了承ください。

5ページをご覧ください。まずは回答者の属性「性別・年代・地域別」といったどういった方がお答えいただいたか集計しております。性別ですが、回答者はやや女性の方が多く結果となっております。全体数808のうち女性が51.1%、男性が47.4%。これにつきましては平成27年度国勢調査の男女比に近い数字となっております。グラフにつきましてはスペースの都合上割合のみお示しをしております。数についてはこの資料の29ページ以降にお示しをしておりますので後だつて確認をお願いいたします。年齢構成ですが20歳代～40歳代は50歳代～70歳代に比べると回答者数が少なかった結果となっております。40歳代までは39.3%、50歳代以上が59.3%とほぼ6対4の割合となっております。そして80歳代以上が1.1%ほど出ております。対象抽出時には70歳代でも回答するときには80歳代になられているという方がいらっしゃるということで回答欄を作っていたため、今回1.1%という数字が出ております。

6ページをご覧ください。先程の年代を校区ごとに見てみますと、福富小学校区で40歳代以下の回答者数が半数を超えております。他の小学校区に比べ若年者の回答が多いと言う結果となっております。無作為抽出なので若干発送した年代が違う可能性はありますけど、さほど大きい影響はないと思っております。

7ページをご覧ください。居住年数です。全体の3分の2が30年以上と回答されております。生まれてからずっと、結婚してからずっとという方が多いのかなと思います。小学校区別、真ん中の方の有明東小学校区が、30年以上の割合が78.6%と最も高く、最も低い白石小学校区では61.4%となっております。

8ページをご覧ください。居住地域です。全体数808通の内、ご覧の通りこれも平成27年の国勢調査での割合とほぼ合致しております。若干有明東小学校区の方が低くなっているのかなと思います。職業構成比ですが、男女とも勤労者常勤フルタイムの回答者の方が最も多かった結果になります。

9ページをご覧ください。家族構成ですが、全体では親と子2世帯の回答者数が最も多く、30歳代をピークとして年代が上がるにつれて割合が減少するという一方で夫婦のみの割合は増加する傾向がある。つまり核家族が多いと見ることができるのかなと思われまふ。ここまですで1回質問を受けます。

○委員長

ここまでのところでご質問ご意見ございますか？アンケート対象者がどんな人かという分析です。アンケート対象者の属性とどんな人がアンケートに答えてくれたのかという所が9ページまでのところがございます。何か分かりにくいところとかご質問とかございますか？よろしいですか？では続けてお願いします。

○事務局

10ページをご覧ください。ここからはアンケート調査結果の報告です。時間の都合上集計方法の説明は省かせていただきます。

まずコミュニティ活動についてですが、地域への関心ということで「地域のことに関心がありますか」と尋ねています。全体では7割以上が「関心あり」と回答されています。男性の方が女性より関心ありとの回答が多かった結果になっております。ただ20歳代は46.5%が関心なしと回答しておりまして、年齢が上がることに関心が増す傾向にあります。

11ページをご覧ください。住民活動への参加経験ですが、全体では「ある」との回答は64.4%と3分の2程度を占めております。小学校区別ではどの学区でも6割前後が「あり」と回答しておりまして、有明西小学校区のみ、ありが7割を超える結果となっております。男性の方が女性に比べ参加経験が2割弱多い結果となっております。これも年齢が上がるごとに参加経験は増す傾向にあります。

12ページをご覧ください。参加機会について問8で「ある」と回答した方を対象としております。回答者のうちほぼ半数が地域での活動の経験があるとしております。他の団体と比べ圧倒的に多いという結果になっております。

13ページをご覧ください。校区別、年代別に集計した表になります。先ほども申し上げました通り、小学校区別、性別、年代の全ての属性で「地域」との回答が最多です。また年代が上がるにつれ老人会との回答が増えております。そして20歳代から40歳代にかけては地域のほかに職場、学校、PTA、子ども会、消防団の回答もありまして、一定数見受けられますので参加団体は多岐に渡っていると分かります。

14ページをご覧ください。住民活動ということで例を言いますと地区の豆祇園とかイベントとか清掃活動等の事なんですけど、そういったものに参加してよかった、ということで聞いております。その中では「近所付き合いが広がった」、「地域の情報を得ることができた」、「地域に貢献できて嬉しかった」との割合が高く、活動参加者は地域の関心が高いことが伺える結果となっております。

15ページをご覧ください。「住民活動において負担または不安な点はありますか」と尋ねたところ、「特に無い」との回答が41%と圧倒的に多い結果となっております。参加した活動に対して否定的な評価はしていないと考えられます。その他、「時間が取られる」ことが29.5%と2番目に多い結果となっております。

16ページをご覧ください。住民活動への不参加の理由として問8で「ない」を選択

した回答者の方のみを対象としています。「仕事の関係」との回答が35.5%と圧倒的に多い結果になっております。「どのような活動があるかわからない」との回答が18.5%、「活動に関心がない」との回答が11.5%となっています。

17ページをご覧ください。住民活動の活発さということで「あなたの住んでいる地域は活発だと思いますか」という問いでは全体で半数以上が活発であると感じていらっしやいます。特に白石小学校区、須古小学校区では6割を超える結果となっております。

18ページをご覧ください。住民活動の情報の取得元ですが、「地域の回覧」、「広報誌」で6割を超えている結果となっております。自ら取得しに行くというよりは、入ってくる情報を受け取ることがメインと言うことになっていることが伺えます。

19ページをご覧ください。「住民活動を活発にするために必要な事は何ですか」の問いには、「みんなが気軽に参加できる地域イベントの開催」が44.7%と最も高く、次いで「住民一人ひとりが地域への関心を高める」が34.3%、「若者や勤労者等の幅広い人たちへの呼びかけ」が30.3%となっております。課題解決や情報発信よりも、住民同士で集まって交流を深めることを求める住民の方が多いためとみられます。

20ページをご覧ください。ここからは生活への困り事についてお尋ねをしております。「現在自身が不自由に感じていること」で、「買い物の場所が近くにない」、「公共交通機関が不便」との回答割合が他の回答項目に比べて5ポイント以上多いという結果となっております。21ページをご覧ください。校区別・年代別に表したグラフとなっております。福富小学校区において「買い物の場所が近くにない」が3割を占めておりまして、他の小学校区よりも目立って高い結果となっております。50歳代以上では年代が上がるにしたがって「近所のつながりが希薄」との割合が高くなるという傾向にあります。60歳代以上よりも50歳代以下の方が公共交通機関の不便さを上げた割合が多かった結果となっております。

22ページをご覧ください。「20年以内にあなた自身が困難または不安を感じる点は何ですか」の問いに対しては、「給与・年金などの金銭収入」が最も高くなっておりまして、「健康で自立した生活」、「介護」と続きます。収入や家族の健康に関わる事柄が多く選択されております。23ページをご覧ください。これも校区・年代別でグラフで表しております。そしてここでも福富小学校区で「買い物」が困難や不安になるとの割合が多い結果となっております。その他小学校区別で目立った割合の差は見られません。10歳代～50歳代では「給与・年金などの金銭面金銭収入」が最も高く、年代が上がるにつれ「買い物」、「健康で自立した生活」、「移動手段の確保」の割合が増加傾向にあります。

24ページをご覧ください。「20年以内に今現在住んでいる地域で困難または不安を感じる点は何ですか」の問いです。これに対しまして「担い手になる若者の確保」が最も高く、以下「空き家・空き地・遊休地の管理」、「移動手段の確保」、「買い物をする場所の有無」と続いております。25ページをご覧ください。校区別・年齢別で表して

おりますが、またまた福富小学校区で「買い物する場所の有無」という割合が目立つほかは小学校区別であまり差は見られておりません。「買い物する場所の有無」、「空き家、空き地、遊休地の管理」、「担い手となる若者の確保」がどの年代でも1割から2割を占めております。そして年代を追って「移動手段の確保」の割合が増える傾向にあります。「住民活動の維持」、「住民同士の助け合い」、「災害時の安否確認体制の維持」は1つにまとめますとどの年代でも2割から3割程度の割合を占める結果となっております。

26ページをご覧ください。最後に協働の進め方について尋ねています。「地域づくりのための行政の役割として特に重要なことは」の問いに「住民の要望や地域課題の把握」が24.6%と最多となっております。次いで「補助金の交付等の財政的支援」、「地域づくり活動の担い手の育成」と続きまして金銭面や人材面での支援を求める声が多い結果となっております。

27ページをご覧ください。それと同時に「より良い地域づくりのために住民ができる役割はどのようなことだと思いますか」の問いに対しましては「高齢者の生きがいづくり」、「介護支援」、「防犯・交通安全」、「子育て支援」がそれぞれ1割程度を占めておりまして、他の項目よりも回答数が多くなっている結果となっております。

28ページをご覧ください。「協働に必要な事柄として行政と住民が共同で取り組むことが必要な事とは」の問いには須古小学校区及び20歳代から40歳代において「教育や子育てに関する事柄」の割合が若干高いという結果となっております。後は年代が上がるにつれまして「健康づくり」、「暮らしの安全安心」に関わる事の割合は上昇傾向にあります。また50歳代以降は「都市の開発や整備に関する事柄」の割合が低下する結果となっております。

29ページ以降は回答の集計表となっております。説明については以上です。

○委員長

はいありがとうございました。それでは少々長くなりますが、10ページがコミュニティ活動について地域への関心度、11ページが住民活動への参加経験の有無、12ページは参加したと答えた人に対してどういう団体の活動に参加したのかという問い、それを小学校区別・性別・年齢別に見たのが13ページです。14ページが参加したという人に対して良かった点は何かという問い、参加した人に対してどういったことが負担または不安と感じたかというのが15ページでございます。16ページは、参加しない、しなかった、していないという人に対してなぜ参加しないのか、しなかったのかという結果です。

ここまでのところでご質問ご意見ございますか？何でも結構です。皆さんが想像した範囲内での結果ですか？意外ですか？そういう素直な感想でも構いません。何かございますか。この種のアンケートは、回答に悩む、困ることが結構あります。この種のアンケート、難しいんですね。例えば10ページで地域に関心があるかと言われても地域への関心って一体何なのかと具体的にこういうイメージしにくい人も答える場合にあり

ますよね。そういったこともある程度含みながらちょっと数字を読む必要があります。ここでいう地域はどの範囲なのか、白石町全体のことを言っているのか、自分の行政区のことなのか、小学校区あたりのことを考えるのか、地域の広さとか広がりですね。向こう3軒両隣だけを考えて地域と考えておられる人がいてもおかしくないですよ。そういったことも含めて数字の読み方も出てこようかと思います。11ページあたりが皆さんからご意見をいただきたいところで、過去1年間住民活動に参加したことがあるかという問いです。全体で64%、3分の2程度があると。有明西小学校区のみ7割を超える。男性の方が女性に比べ参加経験が2割弱多い。年齢が上がるごとに参加経験は増す傾向にある。この参加というのが自主的な参加を前提とするものなのかいわゆる区役みたい、払わないといけないというような参加なのかこれもやっぱりいろんな程度が含まれていると思います。何かご質問ご意見ありますでしょうか。

○委員

アンケートを白石町全域にランダムで送付されたということなんですけれども、地域によってはやはり最近アパートが多いとか、アパートよりも地域の世帯数が少なくなる状況の中で、大きく見たアンケートではこういう結果かも知れませんが、我々の地域では地域とのつながりがだんだん少なくなっているのではないかと。私は地域にアパートが結構ありますし、入りが激しいという部分でその辺を危惧するんですけども。

○委員長

アンケートに十分な時間的な余裕があれば、質問項目の中に居住形態、戸建て住宅に住んでいるか、またアパート住まいか団地に住んでいるのかという選択肢を設けて分析することも可能です。膨大になるとどこまでやるのかとアンケート途中でやめてしまって回収率が下がってしまうことがあります。今言われたことは全くその通りです。特にアパートに居住されている方というのはやはり居住年数は比較的短いですね。だからあまり地域に対して自分がそこで暮らしている事を地域との関係についてそんなに考えなくてもいい。むしろ考えたくもない人はアパートを嗜好する傾向にあります。それぞれの地域でうちはアパートが多いんだとかうちはアパートがほとんどなくて昔からの戸建て住宅が多いんだなど地域性を踏まえた上でそれぞれのまちづくりを考えていくことになろうかと思います。

ほかに何か気づいた点とか感想とかございますか？何でも構いません。有明西は何か特徴的な数字が出ていますが、有明西はどういう場所ですかね？有明東西南で西はこんなところが違うとかありますか？特にわかりませんか？有明西は何か行事への参加を厳しく縛り付けているのか？そんな事はないですか？結構地域によってはありますよ。「出んといかんぞ、こないと立場悪いぞ」とかいう地域はあちこちあります。私は別に有明西がそうだと言っているわけではありません。一般的にはそういう知識があってもおかしくないと思います。これは地域の特性です。これから小学校区ごとに例えば小学

校区ごとにまちづくり協議会のような組織を立ち上げていくときにうちの校区ならではの発想があってもいいんです。他所と一律にするな。うちでうちの校区ならではの意見があってしかるべきですからそれを縛る必要は全くない。あくまでも一般的に共通する小学校区単位のまちづくり協議会というのはどういうものかというものを委員会の中で検討していったらどういうやり方をするっていうのはそれぞれ校区で決めていただいて構わない。最低限のものをここで決めていくということになろうかと思えます。よろしいですか？では進めさせていただきます。

14ページあたりからかなり重要なテーマになろうかと思えます。その住民活動に参加してよかった、参加した人に対する答えです。近所付き合いが広がった、地域の情報を得ることができた、地域に貢献できてうれしかった、こういうのが多い数値になります。それから15ページ、参加した際の負担感、不安な点について4割は特になく、時間を取られることが1番多いということですね。この辺は年代にもよると思います。一般にこういう行事というのは大体土日祝日に集中しますね。そうするとどうしてもいわゆる働き盛りで子育て世代の方々というのは、やはり土日は休みたい、あるいは子供と少し遊びに行きたい、買い物に行きたい、特に30歳代から40歳代というのは子育てをしながらそれぞれの勤め先でもかなり中核的に残業までして働く世代・世帯というのが多いと思います。そういった世代として見るとやはり時間を取られると、そこに多少不安感や不満顔を持つと思います。多くはご夫婦2人で働く共働きが多いという状況ですね。どちらかという共働きで奥さんの方が正規雇用ではなくてパートあるいは非正規雇用という世帯も多くございます。そうするとやっぱり土日は休みたいのになぜこういったことに出ないといけないのかということが素直な気持ちだと私は思っております。

16ページですね。住民活動に不参加の人たちに対する問いですが、仕事の関係で時間が合わない、これは正直な気持ちだと思います。1番重要なのはどういう活動があるのか分からないという事ですね。こういう活動があるという情報を一生懸命出していると思っているんですが、それが伝わらない、伝わっていないということがしばしば起こります。特に回覧板を回したからうちは伝えたはずだと。しかし回覧板を誰が見るかという、その世帯の中で奥さんだけは見た。旦那さんは見ない。我が家はそうです。回覧板はほとんど見ないですよ、大体奥さんが見て、僕に断りもなく次に回してしまうんですよ。例えばそういう広報の仕方では情報を流したはずだと思っている人と、いやいやその情報は知らないという人の差は非常に大きいと思います。若い人たちはやっぱりLINEのようなSNSで見た方がすぐに分かるし、「なんで回覧板をLINEでやってくれないの」と言う若い主婦も増えています。そういう情報の流し方、共有の仕方というのもこれからのまちづくりでは極めて重要なことになろうかと思えます。

17ページあたりから、あなたが住んでいる地域で住民活動が活発であると思うかどうかという問いです。全体として半数以上が活発であると感じている。白石と須古では

活発であるとの回答が6割5分を超えている。白石小学校と須古小学校というのは旧白石町の中心部ですかね？多少街的な様子が多いところかなと思います。

それから18ページ、住民活動の情報の取得元、先程の所ですね。住民活動についてどうやって情報を得ているかという所ですね。地域での回覧板ですね。広報誌が圧倒的です。私が意外と少ないなと思ったのがSNSですね。都市部だともっと多くなるんですね。つまりこういったものはまだ活用されていないというふうに僕は読みました。このご時世でSNSでの情報取得が2%もいかないというのはちょっと異常です。おそらく40歳代以下の人はほぼスマートフォンのはずで、40歳代までの人でガラケーを持っている人はまずいないと思います。スマートフォン1台あればものすごい情報を入手できます。自分でアクセスしなくても入手できます。勝手に流れてきます。そういったツールを積極的に使っていないとなかなかうまく情報が広がらない、伝わらないだろうと思います。回覧板はダメだと言っていないよ。回覧板は必要なんです。特に例えば夫婦世帯、独居世帯は絶対に必要です。絶対に必要なんですけれどもやはり情報を共有する別の仕組みが必要だと私は思っています。

19ページ。この辺は極めて重要で、住民活動を活発にするには何が必要か。みんなが気軽に参加できる地域イベントの開催。これが圧倒的です。実は小学校区単位でのまちづくり協議会を立ち上げるときに1番みんな何ができるかという時にこの意見が圧倒的なんですよ。今までは昔からやってきた行政区の祭りだとかいろんなイベントをやってきたんですね。それだと参加者が少なく何となくマンネリ化している。隣の行政区と連携してとか、1つの小学校区単位でイベントをしたらいろんな人が集まるよね、ということで結構これはまちづくり協議会を立ち上げる中で1つの大きな目玉になります。こういうイベントを新たにやることによって理解者を増やす、参加者を増やすということがしばしば行われます。

ここまでのところ何かございますか。私ばかり話してもなんですから、経験的な話でも構いません。うちでこんな活動しているんだけど、活動する人が年々減少している。いつも決まった人しか出てこない。いやいや、うちは若い人が出てくる、なんかそんな皆さんの身近な活動事例をご紹介いただけませんか。そんな難しい説明をする必要はありません。皆さんの地域の活動でどんなことが起こっているか、どんなことが問題となっているか、このアンケートの内容にも関連してご発言をお願いいたします。何でも結構ですよ。

○委員

何回もすみません。私、白石に帰ってきて約12年経つんですけどけれども、班長が当番で回ってきます。班長もその班の中で世帯数はそれぞれですから、10年に1回あるいは5年に1回、3年に1回という形で回ってきて、たまたま地域の役員や班長をしていない時に情報が伝わらないんですね。班長さんだけが知っていてそれが末端の班の中に落ちてこないわけですね。これはいかんよと。普通こういう組織であればトップダウン

で情報を流さないと、町からの連絡事項なども伝わらない。これはいけないということ
で最近区長になってから、公民館長にもお願いをして、班長会であったことを回覧板で
回そうよと。メモを取る人、高齢の方、何を言われているか分からないという方もいら
っしゃいますので、一応班長会の内容を文章で回そうよと。議題は議題で案内はします
けれども、そういう形で今、班長会のあるいは役員会の内容を回覧しております。それ
でもやはりさっき言われたように各家庭の誰か1人しか見ないから、なかなか情報の伝
達がうまくいかない部分もあるわけですね。それと合わせて毎月2回、町からの広報が
いっぱいきます。それも班長さんをお願いをして回してもらってますけれども、その中
に各戸配布と回覧があります。回覧の場合には、1日2日も置いていたらいけない、早
く回さないといけないということで回っていきます。そうするとその中に地域のことを
一緒に挟み込んだらそれもスルーされるわけですね。その部分についてはやはり地域の
大事なことですからゆっくり読んでもらいたい。クリーンデーはいつするかとかあるい
はどういう行事をいつするかというふうなことでですね。班長さんは大変ですけれども、
それだけを広報とは別にそういう形で今は情報として流しております。果たして10
0%それを皆さんが理解あるいはされているかというのはちょっとまだ今の時点では
私も分かりませんが、できるだけそういう形で情報を流さないと地域はなかなか
まとまらないし、活性化しないんじゃないかというところで現在動いております。

○委員長

はい、ありがとうございます。班長経験ということでの苦勞だとか情報の伝達につ
いてのご意見でした。福富も有明もそれぞれの行政区に班があるんですかね。各地区に
班長がいらっしゃって、基本的に輪番制ですよ。班長さんは大体任期は2年が多いで
すか。無給ですか、有給ですか。有償にするか、無償にするかというのは誰が決めるん
ですか。行政ではなく各地域で決めるんですよね。その自治活動のいわば1番の末端の
最小単位が班であるということを私は理解しました。その班の役割はどちらかという
と行政の情報を隣近所にもれなく伝えることで、特に班長さんの仕事は、役場からの情報
等をもれなく各世帯にしっかり伝えることそれが1番の大きな業務と考えていいです
か。それから、班長さんは少なくとも各戸別に回るんですよね。そうするとそれぞれの
班の世帯の状況とかそれについて班長さんはあまり知らない。よく知っているところも
あれば、ほとんど多分アパート何かがあってほとんど実態を知らないという理解で良い
ですか。後はその近所のいわば噂話か何かでその家こうだよとか、噂だったとしても
班長さんとしてはそういったことにあまり立ち入らない、入れないですよ。おそらく
それは行政区長さんとか民生委員さんとの違いだろうと思います。しかしながら、行政
からの情報をもれなく各世帯に伝えるという重要な役割を班長さんは担っているとい
うことは確認したいと思います。あとこれ以外に経験上地域の活動について、あるいは
情報の伝達について何かご意見ございませんか。事例を紹介していただきたいと思いま
す。

○副委員長

私は、福富の住ノ江区からですけれども、他の区の事は詳しく分かりませんが、私たちの区では住民活動への参加について、協力をしていただける方としていただけない方といらっしゃるわけですね。何の行事にしても、特に町民体育大会では来てくれる人はずっと来てくださるわけですね。それから毎年いろんなスポーツ大会にしても協力してくれる人はしていただけますけれども、そういうことでハッキリしているというかですね。分かれているわけですね。区長さんも老人会の会長さんも体育部長さんにしても、協力していただける方に声をかけることが多いですね。各行事の参加についても決まった方が来て下さる。そうしないと人数の確保とかできないもんでですね。他の地区がどうか、皆さん協力してくださるところもありますでしょうけど、私たちのところは地域柄職業もバラバラなんですね。サラリーマンの方もいらっしゃいますし、農業の方、漁業の方、いろいろいらっしゃいます。農業主体の地域はそこでまとまりがあるんですね。しかし、私のところはなかなか言っても来てくださらないというところが1番の悩みです。以上です。

○委員長

はい、ありがとうございます。今ご意見があったようにいわゆる農業を多くの方がしているというところはやはり農業の生産のために水路だとか草刈りだとかそういったことをまめにやるとのが大前提なりますので、それだけでも活動への参加はあるんですね。そういったところがないところというのはなかなか難しいと思います。私ちょっと皆さんにお聞きしたいのは活動と言うけれども、イベントのような活動ではなく、例えば平日ほぼ毎日やるような活動ってありますか。例えば子供の通学時に道路に立って見守り活動をするとか、横断歩道で誘導するなど子供の見守り活動を平日必ずやっているところってありますか。交通指導員さんですね。その交通指導員さんというのは各地区に1人ですか。佐賀市の話ばかりで申し訳ないですけれども、まちづくり協議会が出来上がって目に見えて大きく変わったのは朝の子供の通学時に多くの方が立ってくれていることだと思います。その小学校区によって程度はちょっと違いますけれどもほとんどの小学校区でそのように行われています。朝の子供たちの通学時というのは普通サラリーマンであれば通勤時に重なり難しいので、高齢者の方々が交差点のところで立って子供たちを誘導してあげることが多いです。あるいは直接交通指導はしなくても、犬の散歩の時間を子供たちの通学時に合わせようという運動をしている小学校区もあります。それはほぼ毎日日常的に地域に活動に参加している事です。月1回の溝掃除、川掃除あるいは年に1回の運動会などイベントへの参加の問題と日常的にどういったことに参加するかというのはかなり違って、1番重要なのは日常的に何かに参加している人がどれくらいいるかということです。役員さんはある意味仕事上やらないといけないことですが、役員という立場ではなくて普通の一市民として日常的に何か活動があるのかと地域のための活動をしているのかということです。これは多くの場合ボランティア

アということになるかと思えます。あるいは実際に活動しているわけではないけど、「今日夕方部屋に電気ついてないね。どうしたのかな。」と絶えず毎日隣近所の高齢者のことを考えている。そういったことを常日頃考えているかというのも、僕は目に見えないけど地域での活動だと思っているんですね。監視するという意味ではないですよ。高齢者の2人世帯、1人世帯の方のことを気にかけてあげる。これは農村部に行ったらほとんどの人がやりますよ。小さな集落になりますけれども、「今日隣の人どうなのかな、電気ついてないな」とか「あれまだ車が帰っていないな」とかですね、絶えず気にかかるような場合があります。活動といってもイベント的な活動と日常的な活動とを分けて考える必要があると思えます。経験上で構いませんので他に何かありますか。

○委員

先ほど言われていたように地域で日常的に活動するというのはボランティアとなるわけですが、自分の健康を兼ねて地域でもウォーキングとかあるいは犬の散歩とかそういうことをされてる方も多いわけですね。ある一定の地域だけかもしれませんが、「この家何かいつもと違う」「電気がついとったよ」「糞が落ちてたよ」などウォーキングや犬の散歩をしながら地域を回っているのでそういう情報が入ってくる時もあるわけですね。あるいは我々の地区には六角川がすぐ近くにあるので、近くの堤防を歩いている方もたくさんいらっしゃるし、六角川に異常があったら近くの人たちが堤防の様子がちょっとおかしいといったことを情報として伝えていただければなおいいかなと思えます。

○委員長

はいありがとうございます。人間関係が希薄化するからこそ、お節介なおばさん、おじさんがいていいんですよ。なんとなく人の悪口につながってしまうようなことだとか、尾行したように思われがちですが、今のご時世やはり言ってあげたほうがいい、そのタイミングを失ってしまったが故に問題が深刻になることたくさんあると思うんですね。区長さんや民生委員さんに問題として考えないといけないのではないとか、意見を吸い上げられるような、自由にものを言えるような社会地域社会が必要だと思います。そのためには散歩しながら考えるような日常的な行動が極めて重要になると思っております。ほかに何かございますでしょうか。

○委員

佐賀市のまちづくり協議会の件でお尋ねですけれども、先ほど子供たちの見守り隊的な日常的な活動をということで、8月に赤松小学校区のコミュニティスクールに地域の方々が協力されている場面が紹介されて話をお聞きました。コミュニティスクールと佐賀市のまちづくり協議会との連携、まちづくり協議会と赤松小学校のコミュニティスクールのような何かコラボするようなことがあるのかなのか、もちろんコミュニティスクールであればもちろん子供中心になりますが、先ほど委員長からお話頂いた高齢者等と子供の横のつながりもあるのかなと。そういったところも情報があれば教えていた

だきたいと思います。

○委員長

赤松小学校でコミュニティスクールをやっているという事は私も情報として知っておりますけれども、まちづくり協議会がどう関係しているかまでは存じ上げません。一般的にはまちづくり協議会ができる前から実は赤松小学校区は子供たちの見守りだとかという活動に熱心なところですよ。実は赤松小学校区はまちづくり協議会の立ち上げは遅かったんです。「そんなもん作らんでも自分たちはやってきた」という自負心があるところですよ。佐賀市の旧佐賀市では循誘小学校だとか複数あります。まちづくり協議会の必要性をそんなに感じなかった、自分たちは前からやってきたんだという所ですね。しかし、最近まちづくり協議会が立ち上がりました。子供の見守り、子供たちの教育、そういった点ではかなり実績はあるんですけども、やはり暮らしの安全・安心だとかなんといっても福祉活動です。そういったところを考えると「やっぱり作らねばいかんよね」というところで立ち上がりました。今度皆さん視察にいかれる若楠小学校というのは佐賀市でも最後の最後です。実は私が住んでいるところは若楠でして、小学校は昔からの比較的住宅地ということもあって住民同士のつながりがそんなに強いところとは思いませんけれども、コミュニティセンターが改修になりまして、それに合わせてまちづくり協議会が立ち上がったばかりです。そういった点も聞いていただきたいと思います。小学校区単位で作るというのは今言われた通りですが、佐賀市の事例は地域によってかなり違ってきます。子供の数は減っているんですけども、やはり子供たちの将来のために自分たちの地域を良くしましょうというのが全ての人に納得してもらえますよ。年寄りのためと言ってもそれはわがままとしか思われぬ。「将来の子供たちのために私たちができることをちゃんとやりましょう」と言うのが1番分かりやすいと思います。児童数が減ったとしてもやはり小学校単位でする行事は多いですね。特に子育て世帯の方々、小学生を持っているの方々というのは忙しいんだけど、PTAに出ないといけないだとか、親子行事に出ないといけないだとかやっぱり頻りに集まれるのはやはり子供がらみなんですよ。その時に高齢者が子供たちと一緒に遊んで昔遊びをしたり高齢者と子供たちの多世代交流があったり、若い親の人たちが学校で宿泊キャンプをしたりだとか子供を介してそこに住んでいる人たちのつながりが生まれて来ますのでそういう意味でもやはり小学校区単位でのほうがいいだろうという考え方が全国的だと思います。ほかに何かありませんか。

○委員

状況報告としての意見・質問として3点言わせてください。先ほど班長のことが出てきましたよね。これは白石町内どこでも同じだと思いますけれども、行政で言えば駐在員会が月1回、各地区の駐在員さんが全員参加されて説明を受けに来られるわけです。その内容が代表評議員さんに伝わります。そして代表評議員さんが、私の近所では50戸に1人くらいですけども、その代表評議員さんが評議員に伝えます。地区によって

は班長とも言いますかね。これが大体、1人当たり10件ぐらい。この班長の役割というのは非常に大変なんです。私も経験がありますが、しょっちゅうお金集めたり、チラシを配布したり、回収したり結構忙しかったです。そしてもう一つ地域には生産組合長がいらっしゃいます。これは農協関係で、集金とかの肥料の配り方とか消毒とかいろいろありますが、農協の会議等で生産組合長さんが受けられものを班長におろすわけですね。さらにこれは配りっぱなしではなく、必ず回収があって、非常に煩雑な仕事です。18ページの棒グラフにある「地域の回覧」や「広報誌」がかなり情報伝達にウエイトがあるわけですが、こういう一翼を担っている班長の仕事は改めて大事だなと思いました。だからあまり期間がない時は「何月何日までに班長に戻るようになしてください」というような付箋をつけて回します。見てもらわないといけないし、今は行政放送で、熱中症予防の放送を流してもらおうでしょう。あれもひよっとしたらそういうのがなかったらあんまりひどかったら、班長が回っていかないといけないぐらいのウエイトがあるのかな。それぐらいの役割があるというわけです。

それから2点目は、各地域でどういうことをやっていますかということでありましたけれども、私老人クラブから来ているんですが、例えば有明西、北明では子供たちが帰る頃ちょっと待ってもらって安全確認をする。有明西なんかでは通学時国道を渡る際に見守りをしている。結構日常的に毎日やっているんですね。それで老人クラブで私の単位クラブは佐賀県でも多いほうで264名おります。これも班長がいますけれども、チラシや老人会便りの配布と一緒にちょっとしたことでも声をかけてくれませんか、どうしても不在のところはいいですよ。そういうのは毎月お願いをしているわけです。やはり声かけ、友愛活動が必要なのかなと思います。

3点目は、町民アンケートの結果が出てきましたけれども、特に最初に戻りますが、私は結局「住民活動とは何か」というところに戻るような気がしました。例えば、地域とは何かということで委員長もおっしゃたわけですが、このアンケートの質問事項は結局個人に聞いてるわけですかね。家族じゃないわけですよ。ところが実際に地域活動というのは何かというと何かイベントをとにかくいうわけではないんです。結局区役なことが多いわけですよ。例えばうちの区の活動でいいますと、堀掃除が年に3回ありますかね。全戸出ないといけないわけで、どうしてもという所ではいいですと。こういったところで顔を合わせるわけです。だからこの中で年に1回か2回は情報を伝達してそして実際にお酒を酌み交わすいう場もあるわけです。そこで近況報告とか、情報が広がるというわけです。それからの清掃活動（クリーンデー）が年に2回あります。これは町内全部やるでしょ。全部出てきてくださいということで班長が回るわけです。誰と誰が出られたかっていうの確認します。それから、地域内スポーツ交流会やお祭りもあります。私の地域では最近青年団が夏祭りを復活させました。先ほども出ていましたサロンの健康教室も開催されているんな形で人が集まるようになっております。元に戻りますとアンケートに「あなたは参加していますか」とか、「どんなことしますか」という質

間もありますけど、やはり振り返りますと奉仕というのは半強制で区役的な出ないといけないう家族にきてるわけですね。だからその辺でやはり捉えていかないといけないうのかなと思います。例えば12ページを見ますと、「地域」での活動経験が突出してるでしょう。これはもう仕方ないわけです。家族にきているわけです。家族の誰かが出るわけなんです。他の職場とか学校とかPTAとかそんなに関わってないと何も書けないわけです。だからもう当然そういった捉え方ができるのかなと思いました。以上です。

○委員長

満を持して発言されますとやはりすごいですね。私もいろいろと勉強になりました。まず班長制度とその評議員の関係。今言われた事は全ての地域で共通することですよね。それから実際には老人クラブが地道に活動している。声かけ活動、友愛活動、それから子供たちの通学時の安全指導というのも実際に行っている。通学時の安全指導などは、すべての小学校区でやっていますか。違いますよね。そこなんです。だから老人クラブではこういう活動をしていますよというのを他所では参考にしてほしいというわけなんです。全体でこう考えますので、この地域では老人クラブがこういう子供の見守り活動をしていますよ、それは他所の地域だってやれるよね。そしたらこの委員会の中で老人クラブの活動を単なる親睦団体ではなく、地域のためにこういう活動をすることもできるということを計画の中に盛り込めば、他所の地域で参考にしてもらえる。すべての地域でやる必要はない。それぞれ地域で選んでいいですけども、私は老人クラブとして立派な活動を行っているわけだからそれを広げられると良いだろうと思います。子供の誘導をするときに制服とかジャンパーとか何か着るんですか。それが大事なんですよ。一目見てこの活動してるんだ、絶対それは必要なんですよ。それから班長と農村地域では生産組合がかなり身近で重要な活動をしている。生産組合は基本的に農業に関連することですよね。あとサロン活動の方も結構行われているってことですね。それともう一つ私が印象的だったのは堀掃除した後に飲み会があるということ。飲み会がなくなった地域というのは本当に悲惨ですよ。飲み会が鬱陶しいと思う人もいるかもしれないんですけども、白石ではお茶講や三夜待というのかな。三夜待だとかお茶講とかそういった飲みニケーションの場がなくなってしまっているところはあちこちあるんですね。そういったところはほとんど住民参加の様々な活動自体もなくなってしまっている。飲み会が全てとは言いませんけれどもそういうコミュニケーションの場があるというのはやはり重要だと思います。活動とそういうコミュニケーションのものがセットで動けばそれなりにまだまだ地域として健全かなというような気がします。計画書の中に必ず飲み会を開きましょうとは書けません、いろんな交流をしましょうという事は書けると思います。

後の方にはもう少し細かいデータがございます。アンケートはこの後若干情報が追加される可能性もありますし、抽出というんですけども、例えば参加している人の40歳代だけを抜き出して他の項目はどうかということ进行分析。これをクロス集計と言

うんですけれども、ある女性だけを抜き出して女性はどういう傾向があるのかってことやっていくだとか、皆さんからこういう情報が欲しいということを言えば集計の仕組みを少し変化させてデータを抜き出すことも可能です。回収率が40%かもしれないですけども800人のデータの意味は大きいです。800人のデータは十分我々が検討する材料として使う必要があると思います。アンケートにつきましてはまた機会を見て分析をしたいと思います。よろしいですか。

(3) 自治公民館・団体等アンケートの説明

○委員長

それでは次の議事です。今までは町民に対してのアンケートでしたが、今度は自治公民館や各種団体に対してもアンケートを取りたいと思います。その説明を事務局からお願いします。

○事務局

資料は5と6と7となります。

まず資料5から説明をさせていただきます。資料5につきましては自治公民館用のアンケート調査になります。これにつきましては先月から今月にかけて各地区の自治公民館長会議でご協力お願いしているところであります。この中に担当公民館名を書き添えていただくことになっておりますが、当然のことながらこのアンケートから得られた情報は統計的に処理をいたしますので回答者が特定されることありませんし、本調査の目的以外に使用されることもありません。それでは、内容について簡単に説明させていただきます。まず公民館名の記入、そして問2から問5まで館長について年齢、職業、在職年数、選出方法などをお尋ねしております。問6から問9までは加入世帯、未加入世帯についての問いです。まず全世帯数とそのうちの自治公民館の加入世帯や加入世帯数の傾向、未加入世帯についての事についてお尋ねしております。そして問10から問11は予算的なものについて、問13から問19までは公民館内の状況ということで館内の活動計画や案内方法と、合意形成の仕組みとして定期的な会合の回数、そして館内の情報収集の方法やどのような団体で構成されているかということをお尋ねしております。そして問18で所属されてる行政区が認可地縁団体の認可を受けられていますかということをお尋ねしておりますが、この認可地縁団体といいますのはそこに※で説明をしておりますが簡単にいいますと、要は建物を登記するために必要な資格です。これにつきましては本町では総務課で受付をしております、例えばコミュニティ助成事業で公民館などを建設された区あるいは公民館はこの団体の認可を受けられていると思われます。そして問20以下は、活動状況についてお尋ねしております。どのような活動を行っているかということで、住環境の整備に関することや生活安全の確保などから該当するものを選んでいただきまして、問21では最も重要な活動だと思うものについて尋ねしております。そして自治公民館の役割として重要なものや町から必要な支援につい

てお尋ねしております。問26は自由意見欄としております。

引き続き資料6をご覧ください。これは各種団体用のアンケート調査です。自治公民館アンケートと同様にお名前を書き添えていただくところがありますが、統計的に処理をいたしますので団体が特定される事はありませんし、この目的以外に使用することはありません。まず団体名の記入、そして問2からは団体について活動地域や活動内容、活動年数をお尋ねしております。次ページでは団体の会員数、活動頻度、年間の予算などをお尋ねしております。問9からは団体の活動について困難な点、行政のどのような支援を望むかをお尋ねしております。そして問13からは各団体の協働の進め方について地域づくりを進める上で何を最も重要と考えているか、町はどのようなことに重点的に取り組むべきと考えているかということをお尋ねし、最後のページは自由意見欄としております。

資料7をご覧ください。資料7は各種団体アンケートの対象団体を案としてお示しをしております。対象団体として選ばせていただいた基準としては、町内で団体アンケートの問3のような活動内容をされていると思われる団体、何らかの県の補助事業などを活用されている団体を選ばせていただいております。以上の団体でよろしければ今後こちらの方からアンケートの回答をお願いさせていただく予定としております。

なお、自治公民館アンケートにつきましては、アンケートの発送を来週9月20日までに行います。ご自宅のほうに発送させていただきますので、10月12日までに回答のほうをお願いしたいと思います。各種団体アンケートにつきましては、発送については郵送あるいは役場の事務局を通じて、または直接こちらからお願いをしに行くなどの対応を考えており、回答期限は10月19日までとしております。説明は以上です。

○委員長

質疑等ございますか。

○委員

資料5の問6で自治公民館内の世帯数なんですけれども、施設に入っているところはどうか。

○事務局

世帯数というのは、今までの役場からの配布物等に世帯数や配布数として入っていたら入れてください。

○委員

うちは施設に入っているけど住所がそこにあるから、公民館費とかもらっているんです。

○事務局

そしたら入れてください。

○委員長

はい、他にございますか。私がまた白石の事はよくわからないので事務局にもいろいろ

る情報を頂くことになっているんですが、この自治公民館というのはいわゆる一般的な自治会という理解でいいですか。

○事務局

自治会とは違います。自治会はこちらでいう行政区の方です。

○委員長

自治公民館というのは公民館と名乗る以上、社会教育法に基づく公民館じゃないですよ。あくまで自治公民館だから主体的にやるものですよ。これとは別に社会教育法に基づく公民館があるんですよ。この自治公民館というのは、合併前から3町あったんですよ。必ず村の中に集会所とか公民館が1つずつあるじゃないですか。そういう意味での公民館ですね。もう一方、社会教育法でいう公民館というのがあるんです。それとは違うんですね。私は自治公民館というのは他でいう自治会に相当すると思っていたのですが、これはそこに住んでおられたらほぼ自治会料を払って、自動的に加入するというおおまかな前提ですよ。実態として加入しないところもあるかもしれないですが、自治会費みたいなものを払って加入するという前提ですね。自治会とは明確に違うんですか。

○事務局

自治会というののうちでいう行政区ということだと思います。そちらのほうは、区長さんがいます。

○委員長

自治公民館というのは館長がおられるわけですね。行政区の自治会とこの自治公民館は具体的に活動内容に何か違いはあるんですか。つまり何が聞きたいかといいますと、行政区の区長さんに行政区としてのアンケートが必要ではないのですか。

○事務局

今回、自治公民館にお願いしようと思ったのは、本町では敬老会や子ども会、スポーツ大会、住み良い住環境のためのごみ収集場の管理、安全・安心な地区の見守りなどが自治公民館の活動になるということと自治公民館を選ばせていただきました。もうひとつが有明地域と福富地域は、行政区＝自治公民館なんですけれども、旧白石町の方がいくらかの自治公民館が同じ行政区に所属されたりしているため、今回は自治公民館にさせていただきました。

○委員長

他にご質問ご意見ございますか。

○委員

一応、自治公民館アンケートという事なのですが、私が先ほど言ったように10何年前に公民館長をしたときに規約とかあるいは運営方法などがあって、それを次の公民館長に引き継いでいくというようなことがなかったわけですね。だから白石町にある公民館で規約などがあるかないかも、アンケートに加えてほしいと思います。規約なりそう

いうものがあれば今から若い人たちにもバトンタッチしていかないといけないと思うのですが、私たちの公民館はもう昔の資料が少ししかなくて、それにいろいろ肉付けして、それを見れば何でもできるという形で、次の人たちにもバトンタッチしているので、後の人たちはやりやすいのではないかと思います。

○委員長

はい、ありがとうございます。この自治公民館制度というのかな、これはすべて規約がありますよね。現状においてないところもあるかもしれないので、規約の有無をアンケートに加えてください。そうするとお金を扱っているはずなのに規約がないかもしれない。総会とか定期的な会を開催し、班長などの役員さんはいるわけですよね。

○委員

地縁団体だったら規約を作っているのではないですか。

○委員長

おっしゃるとおりです。しかし、今の世の中の通念上、認可地縁団体だろうがなかろうかお金はすべて何らかの形で使っている活動団体ですから、私はやはり規約があっべきだと思います。こういう機会に自治公民館制度そのあり方もこの委員会の中で検討すべきです。ですからまずデータとして規約の有無は項目の中に入れてください。会議の総会があるかないか書いてありますが、そもそも規約があるかどうかちょっと押さえましょう。

ほかに何かご質問ありますでしょうか。この自治公民館や行政区の自治会、これがいわゆる地縁、土地でつながっている「コミュニティ活動」といいます。それに対して団体の方は土地とつながっていないわけではないんですが、活動目的によって集まっている「テーマ型」といいます。その活動を目的によって集まっている団体そのテーマ型といわれる団体がこれからの地域づくりによって極めて重要です。地縁の団体というのはやはり高齢化が進みなかなかコミュニティ活動が活性化しないという多くの課題を抱えています。それはある意味他所から予告してサポートし得るのがこの団体の方です。この団体の方の活動内容をしっかり押さえたいと思いますので、アンケートを依頼しているわけです。当面この団体に対して行うという案です。これについて、この場ではなかなか言いにくいかもしれませんが、趣味の会やサークルなど「この団体はアンケートに答えて欲しい」などの要望がありましたら早めに事務局にお寄せいただけませんか。何らかの形で地域のコミュニティ活動・地域づくりに関わっている団体は拾いたいと思っています。拾い上げればキリはないんですけども、皆さんの個人的な考えで構いませんので「この団体にはぜひアンケートを送ってください」というようなことを事務局にお寄せください。このアンケートはいつ郵送するの？

○事務局

郵送というか、例えば役場で関係ある課を通じてとか、直接事務局が出向いて対応します。

○委員長

できましたら今月中までに事務局のほうに団体アンケートの対象として推薦するというか提案がございましたら遠慮なく申し出てください。必ずそこに出すというわけではありません。候補として出していただきたいと思います。内容について他にございますか。アンケートの内容として先ほど自治公民館の規約を入れて欲しいという意見は反映させていただきます。このアンケートは実際にこれから行われますので、もしアンケート項目についてご意見ご要望がありましたら事務局の方にお寄せください。以上が本日予定していた協議事項でございます。その他何か全体を通してご質問ご意見ございますか。よろしいですか？では協議はここまでといたしましてその他に入らせていただきます。事務局から説明をお願いいたします。

4. その他

○事務局

委員長、委員の皆様、貴重なご発言ご意見いただきましてありがとうございます。それではその他の方に入りたいと思います。次第にも書いておりますが第4回の検討委員会は10月29日に佐賀市の若楠公民館「若楠まちづくり協議会」の視察研修を考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。その後、第5回・6回の検討委員会は11月に1回、12月に1回を考えております。また日程については後日調整のうえ開催したいと思いますのでその旨ご理解お願ひしたいと思います。事務局のほうからは以上ですが何かご質問等ございましたらいただきたいと思います。

○委員

10月29日若楠公民館の視察という事ですが大体視察の時間はどのくらいでしょうか。

○事務局

2時間程度を予定しております。

5. 閉会

○事務局

ほかに何かございますでしょうか。ないようでしたらこれで終わりたいと思いますけれども、委員の皆様におかれましては長時間にわたってご協議いただきましてありがとうございました。これをもちまして第3回協働による地域づくり検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後9時 閉会